

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771400484
法人名	大阪府社会福祉事業団
事業所名	白島荘グループホーム「華の家」
所在地	大阪府箕面市白島3丁目5番50号 (電話) 072-725-4165

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月9日

## 【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 6.8 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	42,000~45,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有( 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> ( 50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 1 月 7 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	4 名			
要介護3	3 名	要介護4	0 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ためなが温泉病院、済生会千里病院、澤田歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪府で幅広く福祉を展開する大阪府社会福祉事業団を母体を持つこのグループホームは特別養護老人ホームと併設され、入居者の活動の場も広がり、研修等を通して法人とのつながりが密になっています。地域に根ざしたグループホーム作りを理念の中に掲げられ、ホーム内のデイサービスの実施や、地域行事への参加、ホームにも地域の方に来て頂くなど積極的に交流を図っています。職員は定期的に自己点検を行い、何でも話し合いながら日々のサービスに取り組まれ、一人ひとりに添ったケアが実現されています。ホーム内は大変賑やかで、入居者と職員は和気あいあいと過ごされ、入居者同士もお互いに助け合いながら一緒に過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題点としてあげられている、ケアプランの整備、運営推進会議の定着について、職員で話し合いながら取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者中心に一部の職員で作成され、職員に回覧されています。会議にて評価の意義について勉強会を実施しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回ホームで実施される運営推進会議には、自治会長、認知症家族の会の方、市担当者が参加され、ホームでの活動報告の他、地域の情報を得たり、相談、意見交換を通してサービスの向上に活かす良い機会としています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際やイベントの際に意見や要望を表せる機会としており、運営推進会議も意見を表せる大切な場と考えられ、毎回、全家族に参加を願っています。また、外部も含め、苦情解決体制を書類に記載しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人会に参加したり、朝市や小学校で行われる地域イベント等に参加しています。ホームで行われる毎月のお茶会や敬老会、もちつき等に参加してもらい、積極的に交流を図っています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にグループホーム独自の理念が掲げられており、地域に根ざしたグループホーム作りを行い、より一層地域交流の促進に努める内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に書面で理念を配付し、事務所にも掲示しており、毎月の会議の際には管理者、職員は理念を基にした話し合いを行い、日々のケアに取り組まれている。また、定期的に理念にそった自己点検も行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に参加したり、朝市や小学校で行われる地域イベント等に参加している。ホームで行われる毎月のお茶会や敬老会、もちつき等に参加してもらい、積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点であった、ケアプランの整備、運営推進会議の定着については取り組まれている。今回の自己評価については管理者中心に一部の職員で作成され、職員に回覧している。また、会議にて評価の意義について勉強会を実施している。	○	定期的な自己点検にて日々のケアを振り返っている。自己評価についても職員全員で取り組まれることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施され、家族、自治会長、認知症家族の会の方、市担当者が参加する運営推進会議ではホームでの活動報告の他、地域の情報を得たり、相談、意見交換を通してサービスの向上に活かす良い機会としている。		

白島荘グループホーム「華の家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を入居者と一緒を持って行ったり、疑問点についても相談に出向いたり、電話で相談しながら連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて入居者の様子や健康状態について直接伝えており、法人全体で発行する機関紙「はくしま」便りに、写真入りでホームの様子を掲載している。金銭管理についても定期的に報告している。	○	家族が毎月ホームに来られているが、入居者の様子やホームの行事報告や予定について定期的にたよりを発行する事により、今まで以上に家族が安心できると共に信頼関係が築かれることが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際やイベントの際に意見や要望を表せる機会としており、運営推進会議も意見を表せる大切な場と考えられ、毎回、全家族に参加をお願いしている。また、外部も含め、苦情解決体制を書類に記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の荘長、次長により職員の面接を実施している。法人内の異動は馴染みの関係でのケアを大切に考え、やむを得ない場合以外の異動はなく、職員が代わる場合は送別会を入居者と一緒行ったり、新しい職員の紹介をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修へ積極的に参加し、受講後はレジュメを職員に配付し、毎月の会議で伝達研修を行っている。資格取得予定の職員のシフトも工夫し、支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に新しく出来るグループホームから見学に来たり、そこで実施される研修に参加している。また、外部研修の参加を通して、他のグループホームの職員と交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前になるべく本人と関係を築いてからの入居を支援しており、事前に見学に来てもらったり、日中の体験をしてもらうようにしている。また、グループホーム内デイサービスの利用や部屋が空いている場合はショートステイも可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にしており、郷土料理の作り方や洗濯の干し方、昔の習慣なども入居者から教わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や入居者も参加するカンファレンスにて、一人ひとりの希望や意向を把握をしている。困難な場合は家族に聞きながら、職員間話し合い、本人本位の検討に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来る事、出来ない事のアセスメントを実施し、本人、家族、担当職員、看護師が参加するケアプラン会議を実施しており、意見や要望を反映した入居者主体の暮らしを支援したケアプランを作成している。職員会議でもケアプラン会議の結果を話し合っている。また、全職員の意見を集約し、統一したケアが出来る取り組みを始めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に1回の見直しとなっているが、毎日ケアプランにそった記録をし、毎月詳しいモニタリングと評価を行い、見直しの検討をしている。状態等に変化が生じた場合はすぐに対応している。		

白島荘グループホーム「華の家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム内デイを実施している。また、家族の付き添いのもとで、通院や美容院の付き添いをしたり、入居者の希望に合わせて、個別の買物や外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞いている。適切な医療が受けれるようにホームのかかりつけ医と入居者の主治医とは連携をしている。職員に看護師が配置されており、主治医との連携、健康管理もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望を確認している。重度化の場合は、本人、家族、医師、職員で話し合いながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉かけや、言葉遣いに注意し、管理者からも常に話しをしている。プライバシーについて自己点検表でも定期的に確認している。また、個人情報については事務室の鍵付の書庫にて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課表はあるが、入居者のペースにそった自由な暮らしを支援している。ペースについても自己点検にて振り返っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特養より食事が提供されているが、ご飯やお味噌汁等、月に何回かはメニューの決定をすべてホームで入居者と一緒に調理している。配膳、食事、後片付けについては入居者も出来る事を一緒にやっている。	○	より家庭的なホームを目指す上で、メニュー決めや、可能な限りの調理全般を入居者と職員が一緒に行なうことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や意向を大切にしながら、体調に合わせた入浴の支援をしている。毎日の入浴や食事後の入浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶をたててもらったり、裁縫や調理にて生活歴や得意な事を支援しており、掃除や洗濯干し・たたみ、食事を取りに行ったり、返却したりなどの役割も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に合わせて、天気の良い日は散歩や買物、週に1回の朝市などに出掛けており、外のテーブルや椅子でお弁当を食べたり、バーベキューをしたり戸外に出る支援を積極的にしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、裏口の鍵をかけずに自由な暮らしを支援し、運営推進会議や職員会議でも検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の指導も受け、年に2回独自の避難訓練を夜間想定も含めて実施している。法人の特養との連携の他、隣の市の特養ともお互いの避難訓練の際に見学をしている。		

白島荘グループホーム「華の家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立の支援がされており、食事、水分摂取量も毎回記録し、一人ひとりの状態に合わせた、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節の花を活けたり、畳コーナーがあったり、ご飯の匂いや洗い物の音、会話、笑い声が自然に聞こえる空間となっており、居心地良く過ごせる暮らしの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物をもってきてもらうようお願いしており、タンスやリクライニングチェアや仏壇などを置いたり、自分の作品や家族の写真を飾って自分らしい部屋づくりをしている。		